

4農総試第57-12号
令和5年3月3日

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和4年度病害虫発生予報第12号(3月)

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和4年度病害虫発生予報第12号(3月)

令和5年3月3日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
コムギ	赤さび病	平年並	県全域	前年5月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い 3月の降水量はほぼ平年並	－ ＋ ±

・留意事項

コムギ赤さび病は、気温が12～20℃かつ葉面に水分があると、感染可能であることが知られています。今後の気象予報に注意してください。また、本病を防除するためには、茎立後～止葉抽出期に1回目の薬剤散布、開花期に赤さび病防除も兼ねた2回目の薬剤散布を実施すると効果的です。各ほ場の生育段階に合わせて防除を実施しましょう。多肥は発生を助長するので、肥培管理を適正に行いましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	前年秋期の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	前年秋期の発生量は少ない 3月の降水量はほぼ平年並	－ ±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い	＋

・防除対策

〔ブドウ・黒とう病〕

越冬伝染源である棚に残った巻きひげや被害枝などは見つけ次第、園外へ持ち出して処分しましょう。特にシャインマスカットは巨峰より本病に弱いため、防除を徹底しましょう。デランフロアブルやベンレート水和剤などで休眠期防除を実施しましょう。

・留意事項

カンキツそうか病について、令和4年10月下旬に実施した巡回調査（ウンシュウミカン22ほ場）において発生量がやや多い状況でした。本病の病斑が多く形成された葉が第一次伝染源となるので、樹勢等生育に影響が出ない範囲で見つけ次第枝ごと除去しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い 3月の降水量はほぼ平年並	－ ＋ ±
タマネギ	白色疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	葉かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	コナジラミ類	多い	県全域	2月下旬の発生量は多い 3月の気温は高い	＋ ＋
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い	＋
	灰色かび病	多い	県全域	2月下旬の発生量は多い 3月の日照時間はほぼ平年並	＋ ±
	すすかび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キュウリ (施設)	べと病	少ない	県全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	－ ±
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間はほぼ平年並	＋ ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の気温は高い	－ ＋
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔トマト（施設）・コナジラミ類〕

11月1日発表の「病害虫発生予察注意報第6号」を参考に防除しましょう。コナジラミ類は、トマト黄化病の病原ウイルス（TOCV）を、タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介します。気温の上昇に伴い増殖しやすくなりますので、黄色粘着板などを設置して発生状況に注意するとともに、発生量が多くなる前に防除しましょう。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

〔ナス（施設）・うどんこ病〕

発生が多いほ場ではダイアメリットDFやパンチョTF顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔ナス（施設）・アザミウマ類〕

ほ場での発生状況に注意し、ディアナSCやファインセーブフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）、キュウリ（施設）・灰色かび病〕

ナスはケンジャフロアブルやセイビアーフロアブル20などで、キュウリはケンジャフロアブルやショウチノスケフロアブルなどで防除しましょう。詳細は本日発表の「灰色かび病情報第1号」を参照してください。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

ダニオーテフロアブルや気門封鎖型農薬等で防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

・留意事項

キャベツでは、春先に気温が高くなるとコナガの成育が早くなり、発生量が増加します。発生を確認したら速やかに防除しましょう。収穫終了後は、残さを速やかにすき込みましょう。

タマネギの白色疫病及びべと病の発生株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。発生を確認したほ場では、速やかに薬剤で防除しましょう。

イチゴのアザミウマ類は、例年、気温の上昇とともに発生量が増加します。施設開口部や吸気口の付近等発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。天敵を導入している、あるいは導入を予定している場合は、それらの影響日数に注意して農薬を選定しましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。ウイルス病などの病害が発生していない親株から穂を採りましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台3月2日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、少ない確率40%です。

日照時間は、多い確率40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%